藤川百首宗祇注

伊地知文庫
文庫20
276

文庫20
276

藤川百首

伊地知氏書冊

世外歌と藤川百首と名付く源事ハ
定家々老後より彼雑歌撰ばるる歌を取
る関係まことい人源歌ハ実其後川
をよりも最故なる実際形ハ如何清見
源ア立面なりとも利ハ何ぞ人
乃ち歌所撰ばるるみ歌を面白
英語を不破の実に成る源川をよ

先祖ゝ藤家なれども官位も
いやしく侍るゆゑ後世
世ゝと呼び藤家先祖ハ大織冠鎌足
代々の摂政関白の家なりゆゑ氏ハ
生き給へゝ中納言の官家
年代遠く遠懐ゝ物の記録なりて
世ゝとハいつゝ世ゝ義
なりされハ皮袋ゝ綴あるハ

ゝ世上に世ゝ拾遺愚草ゝ
建保四年撰給ふ歌の道ハ分
きハ拾遺愚草ハ入侍定家卿滅
後為家卿彼百首の書加へら
れゝ侍ゝ彼百首ハ後川を
新ゝ撰ゝ侍ゝ彼百首漢才和
朝の物語ゝ事侍ゝ悲書載侍

関路月去

[illegible]こゝ[illegible]実[illegible]後川去[illegible]も[illegible]震ふ下[illegible]ひて

みゝ[illegible]実[illegible]後川[illegible]

[illegible]つゝ[illegible]百代まで[illegible]

古今元慶の御へ乃[illegible]彼[illegible]

と[illegible]事[illegible]実[illegible]の注[illegible]

書[illegible]不及[illegible]非

湖上朝霞

[illegible]湖[illegible]

[illegible]震[illegible]浦風

[illegible]湖の眺[illegible]

い[illegible]又八[illegible]震[illegible]風も吹[illegible]

[illegible]肝[illegible]実[illegible]形[illegible]浦の眺[illegible]乃

面白き事を[illegible]

[illegible]い[illegible]利

霞隔遠樹

二梅の山まれ星霜和歌河いふ人ゝ二年枝
[illegible]河の人は二年の枝等を
又もあれ二年の枝
二梅の里和歌（はるゝ乃義なれども）
月出れば花なれハかくよる歌なり先
星霜と作るに此源 表ハかゝれ
今年なれども必人歌ゝ
[illegible]ゝ春の物形の眼前の

眺望形象遠樹を[illegible]

羇中関望

[illegible]遠山まの[illegible]
[illegible]ハ遠山まの[illegible]
きゝハ[illegible]
彼後撰の[illegible]（き事作り遠
山まを遠山[illegible]
此[illegible]

作りたる後撰乃歌ハ山を発て後
まもなき程おもひの一也羇中と作るハ
旅乃宮ゐハ乃ら乃ハ大旅なり只
旅行の心をよみ作りたるなり心相遠
き へしと雖も遠山ものと作るハ羇
中此心明らかなり扨遠山なるを当ふいに
人作りを作りぬ山中の行路なり
作色ものと作りたる絵情限なきなり

隣家行当

山賤乃園生を過くるなれを家行ふいと当
梅花乃ほのかに匂ふを事問き当乃
ひとくくといひしもを
山家此行る我袖に当乃人いと
を作りたるなり又隣家と作る歌の心園生
ふ過くるを分明なり乃ふに眼張
作り作り武歌をとりて家を作り

人乃幾階堂乃事ヨリ作ル

田家美菜

小山田乃氷ヨリ流レ出ル水ハ一ツノ命世ノ源乃美菜ハ油ヨリ
ヨミ出ル其ヲ煮テ作ル人ハ代ヲ代ニ伝ル眼前ノ風景ヲ歌
ニ詠ル詩ヲ作ル人ハ其ノ美ヲ味ハヒ其ノ美ヲ作ル人ヲ

かりまあるよ宗門ヨリも山野草木海川鳥
獣ヨリも幾階堂ヨリ伝ル事なり

野外残雪

去日陸八郎乃残雪乃消ヲ見テ其ノ袖ヲ数ヲ
袖ヨリ出ル人ハ其ノ美菜ヲ作ル白妙乃
残雪ト此二ツノ影ヲ幾階堂ヨリ作ル人
雪ヲ作ル雪ハ何ヘシ去ノ雪ハ

[illegible]

山路梅花

[illegible]

梅花の句を表へ乃の[illegible]の山

[illegible]へ[illegible]梅山

[illegible]

[illegible]

平人雅も山路に迷ふ梅乃句を知て

[illegible]

梅の香の面白さに誘引せ[illegible]

山路をたどるくもの[illegible]へし梅も

香ともに知[illegible]人乃[illegible]

[illegible]

吟味[illegible]へし

梅薫夜風

[illegible]へし眼を[illegible]

白氏文集梅の香に引き合はせ出だし
彼の文に見えたる梅の一首の歌をよく
又作りに共に見の歌乃とは作りなり梅は
ふる雪乃なかにて咲きそめ風もうゆれ
ともちらぬ様に見乃紅梅とてよく作き
墻隠のうぐひすなき又曇さ雨夜乃月
星も出たるとおもはれぬる篠作張星
なき夜へし不及筆右の面と工夫有
べし又星をよめば星の梅ともいふを
作るよりてとかる説作れども不用
べし

水辺古柳

寄月恋　つの国の難波柳陰の川河の末れなる古
始中終古柳乃事板にて一首
のうちの面白く作り彼歌を古れ字
肝要乃とおもへし

雨中待花

春雨の木末にもあり梅花親のいまだ来ぬ宿

養得自為花父母洗来寧辨業君臣

さきそめし初花のいろ乃春雨にぬれて孤

花来乃夜とも春雨の外親のいま

乃事多く待ちたれと不及逢彼宿

来といふて二ぬる上に木のもとにあるとも

いへ源氏物語

万葉

雨中に花たちまちいろ乃いまのうて孤い

物と乃的来ぬ待ちぬ何の為

雨中待花とい へ源氏物語

と詩利

野花留人

玉ぬる浮世なれて咲花乃ちる武蔵野人

い川面てう時色よ乃ぬるれ

花しちる人の世も面白し

彼歌をと秋と作の為人といへ源氏物語
に人事を主きりるといふ事毋論なり
今乃清濁の事ニも物の万葉の長歌
よりもつとも重ハたいせつ也ともあ
らもの也ともなくとも有ん
世中ハ事ハつねなく 又世ハかりの
に全躰ハよきハ物ハ物ハ悪をもきハ
源といへ事

遠望山花

亀山のかまとの雲にまぎれ源氏物語の橋乃四方山花
遠望いかにもとなるとハ面白さ
と成乃ものなるし彼歌乃ハ長
分ハ歌ハし花を雲ハ海ハ源氏
形ハ古今序ハ序ハ源氏ハ重衣乃儀
ハ清ハ宴ハ表ハ海ハ歌
分形乃事

曉庭落花

[illegible]風吹風吹落花散ると
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

曉庭落花

[illegible]
[illegible]
[illegible]

古郷夕花

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

なり花もちりさそふ嵐わすれしは冬の
そのしる残月人も待る伸しきとなり
古郷有毋秋風渡旅舘無人暮雨魂
此詩の心を観想すへし

河上春月

朧春の霞に隠れて見えわたる四方の川霧比瀬よりも深き月影
流くさねの岸よりおつる水の川
瀬々に津まて潮となりぬる

慈雑の人の心をもて四季折々の残をも楽しみし
その教へに叶ひ侍るなり 鄙の吹をもて
紫陽の花より車残いへ利見文作者の物
移すへし 歌人詩人となりては飛花落葉
有為転変を観想すへしと移す

源氏帰居

春秋の八雲の色も鳴ぬまに田の畦の居るはいつも花立の
故々と云はれの縁事なれは色類も依て

八代集の中にも行方定まらぬ言葉
をば海に捨てよ沖つ波寄せぬ
岩木も獣も知れぬ秋萩の
乃一群をなして有心躰の
体をなすべし又八雲抄にいはく
を源氏の物語にあはれなり

藤花隨風

松風の声も聞こえぬ藤の花
なびくらむかぜ吹きにけり

花の色を松にまがへる藤の花
乃ぶるに分別なし歌の字虚實乃
心得違ひなるべし

稽辺歎冬

稽辺の雪の中の梅の花
山吹乃色を取いろ乃衣
とぞ思ひ出でぬ
古今集に此歌あれど不分明彼物語の

事無きを以て後世に伝へんとも少く事を
つゝ作る長柄の橋はまいこ天皇の世に作
天皇の御代なれば難波の国と渡辺の
間幾ばくの遠きを以て作る所の橋成
就し作り上げ人をとゝめて橋ばかり
へきを以て命じ給ふ或は河内
乃至の者支度等六十日の内に成
るを作るに為の工を作へは彼者

ア名数ハ人夫事を詳に乃細文な
ひきハ毎年すくかゝ事所人柱を
ふを清弱人とゝ作るを作ふを
唯今乃支度乃者幾ばくを人柱な
毎年事を彼橋かまて如
なし彼者かるもの如ふ作
或士ふりて妻と宮ち作つり作れと彼安
物い事所人ア数ハ人夫数人

三病の内にて人乃数ならぬ病と
申せハ天下興ゑ乃世てハ別く
ゆゑもなく天下の人乃ことく男も為る
ものの人乃ことくなるもの乃ことく
ふ雑とハ為ぬ人てあの為
射ゑ人と申せハ男乃為にて射
ける的興乃うちに聖の事不思議
なる事に

なのハ〳〵ハ父を長柄乃橋柱
雑もなるハいとき事
ときなれハ男女ゑの事更乃歎
浅ゑ乃武士乃心ゑ乃事を歌の一
首乃建立者特ゑ乃ことハ古事
とハ彼是雑味し為ハ為し

船中著去

文ハ世界乃志乃ゑ文毋の去ゑ乃事乃

此樓と以前富士特なる景と世間の朋友なりしかとも立わかれきはの別れ（さふ
海上すでに友毎一人なるべしとて
若干に出る日的なりかるるいう
はつの別れ雪の家法詩は三月正當
三十日風光別我苦吟身與君今夜不
須睡未到曉猶是春

卿花隠張

卿花乃枝もたわゝの露なる間き結花昔かるる後
見ハ惟喬親王小野といふ所に御ありまをと
業平雪乃ふる日乃事なるを
ゆきさてハ梅乃花をこそ見まさ
雪ふるとも梅乃花ハ
小野乃卿花の花地形りなり卿花
露乃玉くしの雪をとをゝ
の事我ハて花乃事を觀想し侍りて

[illegible]

初関郭公

[illegible]

五月雨の山路をたどる折ふしに
いまもなつかし去年の古声
きりぎすの[illegible]
稲葉ふく秋風をまつ
此夜首尾心調をうけたまはり和と

いと文字ふとき叶へ里霞ゆたしうのうれ家
まことをもとめしかるの事まてハいと
なれとも外見あるへうる事なれ
第よ海の奇作の長私の注文所
山家郭公

此里ハ待も海原も時鳥山ふかき谷
山賤ふくハ時鳥我待事もまたうへ
海ハ海もせよ海原もあれかく

田のもの我がものとなりたること能わず

池朝菖蒲

あやめぐさ五月の雨水に花の色を別てわかぬ

此歌池沼の中なりあやめぐさと詠

よ朝乃義叶（初）

閑居敷遣火

あるときは煙もたえし時ときは新の峯山乃奥ゆかしの火

時ときは富士乃根いかりとぞ

かのこ斑なるに雪のふりしき

色を作よいかん作り富士の根みる

作技葉山を立

庭樹驚当夢

軸乃番ハ花樹よ弱れもきて法きる紀義の俤

風ものハ山紅葉ハ切り雲乃

きて法きる紀義乃

五月雨川を船乃書紀ハ

[illegible]

杜五月雨

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

野夕夏草

[illegible]

小萱百葉[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]小萱も秋をつくるなる
[illegible]判あるハ当今も[illegible]
[illegible]なる雅を[illegible]

西行法師

[illegible]つる野も色乃[illegible]
[illegible]
と[illegible]唯憂の日つくるゆへ[illegible]
[illegible]

[illegible]鄙の山[illegible]
[illegible]
恵[illegible]

洞庭[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

を以て彼仁の答ふ

日新なる事なる世の事

其の明らかにすべし

是は有るべきことゝ作る又文もなしの

答て言うと作り

行路夕立

空は雨もよふ花の衣の裏の切遠き合

かり衣を統作り狩場の袖衣をみる

作るなり又旅切みるなり

和秋朝風

秋来ぬと作るなる蓬生に朝ぜの風の吹くまゝ

吉野とは作るなる野の雲ぞ

山もとすみて今朝を見る

此歌は紀の綱貫と作る但朝ぜの風の

吹くと作る源重之の歌事作り

表八一表二表明て秋来て風吹く

星行の如くなり 抱裏の義は蓬生といふ
綱よりさて生ずるといへる源は彼源氏
乃末つ世花を沙汰し和て形おとり
ゝ義ゝ義ゝ之事
なれりきさらぎもすに花の如
末つ世花殘和ふれば
とゝのゝりてゝゝの陽ゝゝ沙汰源ゝ
へ右近しなてなるつるゝゝ出給ふ

ゝゝゝゝゝ京ありて花ちる里へ
御入乃時ゝゝゝゝゝ新宮乃行幸
沙汰してゝゝれはいゝゝ源ゝゝゝ
ゝ利しゝ惟光あれゝゝ常陸の宮と
ゝ行ゝゝゝ乃時ゝゝ出給ふ事
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ乃義殘沙汰
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
も殺殘時義ゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

源氏蓬屋の事を蓬生といふ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

閏月七夕

天河文月の名乃形生と雲[illegible]
後七月七夕二星の合事なく逢瀬
[illegible]
[illegible]
閏月の中[illegible]

野亭夕萩

秋萩[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

幽情[illegible]

江辺曉萩

明[illegible]萩乃[illegible]

親白疎白乃[illegible]

親白[illegible]

類[illegible]

山家初雁

秋風乃[illegible]

秋風乃[illegible]

いつ遠[illegible]

[illegible]新古今の[illegible]古作者[illegible]

[illegible]人[illegible]秋風乃雲にま[illegible]

[illegible]奇妙の調なり[illegible]

明らかなる人業の浪のみかの月

海上待月

清濤萬頃秋の花花なかりせば
誰も木も見ざらましといさよふの月

さく花花の秋なりの夕数
浪の花の海上なりの残海神のかなて
て接遊するに月乃出待ふるの月を
手も人もえ待えきなれば彼花ならる

人も待ましと明るの山花一枝見ハ出る
ましとい〳〵源よりてさを乃花ありの
ましと待るハ待出ましけ〳〵
あらも源あふとたるに月の
近花あらんとも不ふかも
如何ぞ乃待ふの源白梅乃
源をそ人新漢源山

松間夜月

袖返秋夕のみかは松風にゆられ結ぶ数月にてまくらなし

あはれあはれて拙き歌の一葉袖ぞ

宿る月さへゆかしき結ぶ数

松風乃音やみかりに吹ゆらん

寂のこゑ人のふみをなしてゆる

ゆきを結ぶ数月にまくらなる優美明

廻し秋乃時雨乃ちり里心ぞよるみ

侍るといへり

深山見月

花すてといふものは世をはなれたる深山の月を見て内観し

山深く入ても心をぬかれぬ花

いふものは世を我見たるさん

なお外の心観想まんし

草露映月

武蔵野はつゆぬれるさぬ白露の宿りにぬる月を見て宿る

むさし野の一つくゆんにむさし野の

[illegible]

白露前風乃吹しく秋の野ハ

[illegible]

鄭の公分のなりしへし映といへ源宮に公

を清のをを作るハたゝとろ知せを

んをといへ源をを

閑雅惜月

逢坂ハ名のりこそをを都乃空をを月乃空をを紀

[illegible]

のをを出源孟[illegible]

出しをのれてをられハ

をを人乃をのれををぬををあれハ

をを書て来ハなしをの代ををををに

清の海川乃をを[illegible]

まを[illegible]坂の空ををを

[illegible]

家門の世常物変化理まさも三十一
字乃玉の美なれ山もそれる事僻覚
筆水述る

廉契夜友

山里は竹の外乃我友を衆なく廉の庭芝なまて
君子為師竹彼猿丸大夫乃歌友と
作る歌名哲乃名を忘れ知てこれ
不ありし

田家擣衣

露霜乃行くそれ山面吹風の寒さに衣おすの
朝霜乃行くそれ山面うるふ
うき世中をおそれぬる郎
窓風の契擣衣を備をとなり

古渡秋霧

文雪にそれ俗奴角田川家友毎八あり
名ゆ知おくいそれ都乃

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋風滿野

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

籬下閑虫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

思量乃及ぶ所あらんかを待ん

紅葉移水

山河の時雨てはるゝ色みちて紅葉の色ぬる所うつ
る色なるたゝ流れ河を花とゝえて
おもきぬゝの袖をぬきなん

時雨てはるゝ奇特形もなき木葉乃色
時ハしらるゝ色ハたゝ流れ行
一流の色ハ勿論なるへし今ハ少

有為のとい（流）可得作詠

山中紅葉

山ゝ深時雨乃行ゝ紅葉ハ錦ハ人ゝ
ゝ風乃吹ゝ錦ハ限なく
行ゝ人ゝ時雨乃行ゝ又ゝ降ゝ
雖及愚詠しるし

露底槿花

秋風乃上ゝ吹ゝ白露ハ玉ゝ乃如朝ゝ乃花

[illegible]の上に[illegible]露[illegible]吹たるを下の
花露を堪きしの[illegible]姿かくも影をとど
めてつゆ艶みも[illegible]

河辺菊花

[illegible]河の[illegible]花の[illegible]を[illegible]白菊
[illegible]秋乃菊を八一[illegible]
二[illegible]花[illegible]
[illegible]物[illegible]菊花乃[illegible]

[illegible]と[illegible]世等[illegible]観想すし

獨惜暮秋

[illegible]人乃[illegible]ハ[illegible]秋の別を
又[illegible]いつ[illegible]

初冬時雨

[illegible]時[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]

人の物いひをうけたまはりてよめる

もゆるは我身なりけりとばかりの事

霜埋落葉

朝霜の庭のこずえもうもれぬる落葉の下の苔の色

如是報の心をよめる又漢波の心なり

うらもなく秋の山べを思ひ入れば

いとゞ山路ぞ深くなりける

屋上閑雲

[illegible]

[illegible]

風吹ばうるさくもとゞまる雲

古寺初雪

むら〳〵の何山路の布さらす

今様の和歌イ

[illegible]

何山路の布ぞ

古寺雪

[illegible]

[illegible]

彼百首の内此分名誉なるよし伝れい
元亀慶長の頃人名録にもれるよしい(利)

庭雪散人

我門ふかく人ふかきまき松雪の外る庭を掃ずて
あるものとなふかてそれ梅花
年々掃きなる掃人も掃ちらす
ふるこそ花の跡ハ雪とまつ掃ふ
きさまハあるもまた花とえまつ

此雪に人乃ふみ分ぬ庭の眺をもせん
なるものとなりてふをとゆくひなく雪数
なる綱れなるまを文よいひもそれぬ物
ゆく人ぬ雪ぬ伝のうり

海辺松雪

伊豆北松ぬいつまと雪ぬ雪ぬ東遠津浦人
松の雪乃おもてしろ雪ぬ文よいひも
ぬるそれ伝ぬ雪ぬ遠津浦人ぬ伊豆

[illegible]

水郷寒蘆

芦花雪も下打たる二潟沼の新田に
此分洞ヶ沼に冬ごもりする芦花蓋の
下打たる月の影おもく作る時景
冬ごもりといふ事作り出る風流意味乃
時雨とこそ[illegible]洞ヶ沼[illegible]
事なりと思ふの恨なるべし[illegible]

湖上小雪

八ヶの海の月も利潮の小夜ふかいつきれ潟盛りて時雨
あるも潟かすみの乃なく翠帯
笠岳秋の色ひ奴潟ヶの実寺
海氏の数数なるいつきの潟をさして
[illegible]と形の奥津潟ヶ竹生潟ヶ[illegible]作り
[illegible]限りなくとろ

寒夜水雪

花とふ乃松錢嵐乃ちる梅叢八鴨のちる拝れ露さちり
源氏よ乃ひて松上乃雲錢かるねんとし
錦ちる色嵐吹ちる梅と彩乃ちる錦乃叢古
夕ちの拝ふなく霜乃か乃形乃んとなる奇妙
なるへし

歳暮澗水

今いくら打出の濱乃袖花も苔乃氷乃下に錦乃ん
苔風よとく流氷の出まてゝに

打出乃波て妻の袖花
彼袖花も今いくら河乃んとなる物

初而縁戀

出乃河峯の長星ふ事と言乃月し罷色乃松八三而と
是八伊勢物語よ清くも媛の女いさを情
ありん男よ有乃ちてゝ乳と打えと以乃
出人もなよりなる也ふ浪をなる嵐かゞ里
此所の出錢とれり出乃河峯りと五文字

にてをさめ侍り又

夕日花は侍りぬ色ぬ松はなをの

いろもかはらぬ色をまもるの郎

洞を色をうしなへし又松は色の後をふ多

くをたをうし侍り和を弱るといふ歌

乃ぬ大事をなを侍るを物語乃洞一をとりて

つまくと歌はぬ侍いへ歌を事深沼

乃ひをうをはをとを

関契悲恋

煤はは家ふをまれをを花乃名はをうをかのまを雲の時をうをは

古今序を等未を獻ふつをを紙をを

歌を侍り乃洞を字れをを花は菊は

花乃事ををうをれをををといをを

まれは契を侍を無をといふ歌をれは

かをうをまり六儀を比乃家をををを

侍をを

忍親昵戀

然も夜深にてハ見えし紫花のあき野色の御事ふ帯ひも
彼物語に女ちちらう殿と里ハいやしき男の
渡川しき殿と里ハあてなる男となりいや
しき男となる風も涼の晦日まうし人のきぬ
をあひても川うち里なりの出行しを
いふしかれとさるいやしき女をもなからへ
さりゆきハうし人のきぬ乃うら残なりけり

よりの望を彼あてなる男少文ていとおもなし
くるハ行のてきまうたるろうまうぬきぬ
をえ出来ぬるとて
紫花色も紀時ものも然もなるに
野なる風に草木もわきまへぬ
影に桐遊し行る古事を川風ハ殊ハゆる
ともし

祈不逢戀

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又此所に祠あり

旅宿逢戀

立田山木葉乃下の松風に落ちきて

昔大和なる人乃ありけるとかや

ちらぬ花一つ[illegible]

人彼女に[illegible]て流[illegible]

盜[illegible]

ゆ[illegible]

彼女を嫁[illegible]

[illegible]

[illegible]の男

立田の山[illegible]

女[illegible]

白川ゝ山岩根践みしてかひの
かひもなくれ我もなく
命にまかせてたゝよひて死ぬる此古
事を以て旅宿逆旅の出践あらはれ
より出銭を明らか成り本紙着乃下
すこいへ源艶にも優笑にも結りて
無常の理なれし
兼厭曉慮

あまひゝゝ姫の山に宿も乳嘘ちゝ姫菱で清女姫と
号る源氏相つ府の交衣乃別此以後
清すゆるまたるゝたまれ世絶ての比すくなき
も有やとて茂つ不の母御と申ハ源氏乃
末母に為あかしけ結る寳通ありし
夜ゝゝ姫の山に登らりもとゝ海洋し
ゆかれと何やにく出源いふしら夜まて
中く成りとて源氏

[illegible]

世の[illegible]に人の[illegible]も[illegible]

うきふしを[illegible]も[illegible]

厭離といふ[illegible]は[illegible]に絶妙乃

事[illegible]

帰西書懇

朝露ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

遇不逢懇

[illegible]人ハ何中[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

奬紅葉感

秋ぞてのしく木葉笑ふ今を盛りと色染る
是ハ業平二條后よりかくいひよりをくる
ものとこそ[illegible]
[illegible]
出るまゝに世いひそめ[illegible]
[illegible]

物もいとあはれ少秋風吹立なん時ハ
といへ初ゆ姫彼后乃せうとも后我
[illegible]
[illegible]
せ[illegible]ハ是を[illegible]
秋ぞいとしるしもあらなに
木葉ゆゑ[illegible]
笑ふ色ゆとなる奉[illegible]

疑真偽癖

雅俗と世の俗のいうを[illegible]ぬ業の弘氏
いづれとも[illegible]
雅俗とうを我も新まん
吟味の紀源をふたりとも[illegible]
さらんとこそ[illegible]

返事場癖

折[illegible]煙[illegible]俗[illegible]の薪[illegible]

[illegible]源氏柏木[illegible]世二宮と柏木の
[illegible]一[illegible]
[illegible]
今ハ[illegible]
[illegible]
世二の宮[illegible]
[illegible]
[illegible]

此返答を太閤書付にていよく思召場を
てうく彼の仕の事を思召てうく返事
諸意の公儀あるべうなれとゝ仰れ

被厭賤意

爰に世くいひなしあるを聞て彼厭賤意の被を
源氏乙女の巻に文雅の大切いまゝ六位
みてゐの致仕の大臣姫君雲井の雁
とゝせて我意をもり給ふ雲井の雁乃法

文はなく六位まくせまたまく大切乃
仕事をとゝ何く儀ふ
今世なる乃なをうるふ儀ふ和歌を
後みるもいひたる〳〵き
と仰る我雲井の雁返し
をく歌乃仕ふ儀程のをうる
いにうをうの歌中乃衣歌
宮家大切よ家をとゝ歌の歌

あらまほしき物の趣して聞えて侍るなる人
古歌古詩の古き事共も残りなく覚え
侍りしよしく伺侍すへき事なるへし
櫻戸と云句にそれは数寄物なりあり
あるなしも縁も侍り又あやの衣紋な
きハ多年の用事ちりまり万葉に
芝川の山櫻戸残ませ不給ひて
家持川筋をわすれらるゝも数

此句残らす深く今少し保ちよく侍へし

途中契恋

石の色此井の下常に川を流れ出て見れきつい神道の家傳
彼物語の事もなくしられたる筆比遊る
てふ書侍之しもし内宮人の大神祭
に幣をおきて春日へまいるに彼井に
此玉のゆくりなく年七寂けり
年数母の残りて記録なり形母ふもれ

侍の内舎人それをえてより事に沙汰な
ほしくまうすべきは我妻とまうすべし
別のおとこしはべらざりけるいろくたりふ
き侍りて常ふみを深く出して又母の
常をれてこもりぬるの後ときをえて
吉信も思ひてかをぬんくに事後少
て姫と殿乃ひかりはいりて久しく吉信
もまれつるとりあへず是を姫少

侍りてまたかいなる紀事とこひて井に
はをなりをなりをなりをなりくなりぬ
るの姫七八年あり事をとりの内舎人
又去日へ通つるふ沼家の姫はあると
彼内舎人をえて何の位まるく仰せ人乃
七八年をれふに張通り侍りつるを
まる事の侍りをあて姫を妻形く
なし侍りつるをいへ内舎人世て不思議

乃事ハ女郎ともて事此子細能く
りくとへハ婚礼乃し事くハしく語りて
此縁くと治定乃ときまの形く成けれ
小類にてあるけれとハいれしハ我りえて謝
待れ茂うつ津くとも忘るゝ母事も記して
田ちそ泉川よりのを出侍り母へは
此下常乃物語笑なり此吉事にて
途中契心分明能数通し

徂門帰恋

花ハ冬蓬の門乃外ハらきて人待て露此衣は
今様にしるしも人もおもひしは
八重蓬してて門の外せりてく
お家乃れ思量乃身通ハるれ

忘住所恋

いつ世かも里乃住居乃跡にお世の菓よ海へて
田まへにせてもかゝもおかのとより

いろはの里なるべし

依恋祈身

まつ人ハ遠くよそに向て年のせ移る森乃しめ縄
うけひきこそしつる祭乃折をえて
年比積もく恋のかずかずに
乞功奠の祭乃事不及沮一二句不可思
議此事ともたゞ例文工夫有遺願事
事肝要

隔遠路恋

和泉海のいく浦くに舟はてゝかよふ通路
志賀とてハ入ぬる磯乃草なれや
みるめもまたずまつらぬおもひ
是又なぞの心乃風姿以体とし
とし

惜人名恋

わか恋の雄名のたつにやあらむ我身ならばかりなき也

伊勢物語さてこそ紀氏乃姫君
名のりそかの貝をかの玉をかの
名のりそハ藻乃名なりし也傳記
しそ姿又幽情限り無
絶不知意
[illegible]
是を源氏物語の光君事なり武藤
事なれハ大かたこの書作る形利

如義乃答に大和度の上郷の法立の源
うしハ是程其名和ハ形しそ名出立
て是をそなる物の事なり去物語の女車
の扇我出して陶淵明の扇乃事
ハ乃前の人其かなりの有ハ
神のなりしかの我物語
此所を源内侍とい(源人の家源氏
の一度逢なりしなれども老女乃事

[illegible]

互恨絶意

藻塩草海士乃苫屋も如是なる人の心を慰ぶ
海士苫屋まもる色に出る秋の月
うらうらと乃ち人のいとふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

曉更寢覺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

薄暮松風

[illegible]

松風魂よへを紙なとい(ゝ)
事なり又ゑ[illegible]
[illegible]用

雨中緑竹

[illegible]
白氏文集ゑ竹班湘浦とゝ娥皇女英
乃古事をもて後ゝ雨奇特と
いへり

浪洗石苔

[illegible]河岸ゝ波乃白[illegible]ゑ苔はみとりの衣をつきぬ
[illegible]同ゑ初生るゑしつきゑ
[illegible]
眼前[illegible]

高山待月

[illegible]乃山[illegible]ゑ[illegible]月を待式
[illegible]乃面[illegible]ゑ[illegible]頭ゑ[illegible]

山中激水

雲海[illegible]

業平せうとうもかつてきぬ布引乃滝より
[illegible]れハたつきぬに出をつくる
[illegible]又山中と称する所あり
[illegible]

河水流清

牧乃原清滝河の名[illegible]

清滝河ハ[illegible]乃菊[illegible]河より又蓬莱
[illegible]五百里[illegible]
不[illegible]
葉も[illegible]
[illegible]
清水ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

春秋野遊

[illegible]

五句のうち春秋乃之不解覚綱紀あ
らさるは[illegible]筆[illegible]

へし

閑張行客

行人[illegible]吹[illegible]笛乃秋風

道行の詩より勸君更盡一盃酒西出陽關

無故人閑[illegible]人[illegible]門出乃時[illegible]

酒[illegible]

[illegible]

と吹[illegible]

山家夕嵐

[illegible]風[illegible]山[illegible]葉乃袖[illegible]

吹[illegible]

[illegible]

嵐と傳ふ題にて山の端越にあらバなき物乃
秋なりけるをおもひしらせて山風の題
に山の端をよまむ人ハ少かなふ事にあるべく
覚え侍り

山家人稀

山歌
古里残したる人の往けんなきもとくせぬ花乃梢
山家ありともしらぬに数播なれハ数奇るか
分明なる事にしもあるときと問人ありこそ明り

稀なりといふ文字肝心なるべき題哉かく
もおもひ入て侍るべし

海路眺望

志らぬ海をゆく舟乃波路はるかに南の小嶋なとを見る
波路はるかに南の小嶋乃濱ひろし
久しくすめぬもとゆるにもひとて
海路眺望といへバ遠きをおしたつねる
みて侍り自問自答せし哉なる事

月霧中友

[illegible]

[illegible]

旅宿夜雨

[illegible]

旅[illegible]

詩[illegible]客睡何曾秋天不明入笠廉殘月

影高樓遠江聲

[illegible]

海辺曉雲

[illegible]

寄夢無常

[illegible]

[illegible]

唯識論ハ生死流轉間悉皆長夜闇夢
也と仏の御理を思へハ幾世とそはあぬ
爰ゝと覚ゆ

寄草述懐

[illegible]

万葉ハ去日郷の[illegible]
[illegible]世利表ハ[illegible]
事多重表ハ[illegible]
四程百官の結宜帳の事を[illegible]
日域開闢[illegible]帝位相[illegible]
[illegible]宜を乃せ[illegible]
[illegible]教[illegible]事

[illegible]

寄木述懐

[illegible]六十[illegible]八月[illegible]
禁中[illegible]外重の八[illegible]櫓を入られ
たり宮家の六十[illegible]月いらるる人も
あるべきかのうせ侍るに外重の櫓ばかり
[illegible]と[illegible]事[illegible]
侍り愛二首を宮[illegible]我身[illegible]事を
[illegible]侍[illegible]し作者[illegible]

逐日懐舊

天[illegible]明る日[illegible]
いにたかもも[illegible]
むしろ[illegible]

社頭祝言

祈る[illegible]神も[illegible]
[illegible]

[illegible]
彼[illegible]乃[illegible]
世[illegible]神[illegible]

宗祇注云云

這一冊以肖柏秘本寫之加
校合然最可謂后代之奇寶
焉幸尓勿許外覽而已

兵部大輔源藤孝在判

せたれ
たれし
大志の

37